

NEWS Letter



Contents

三遠南信地域連携研究センター	2
2016年度 越境地域政策研究フォーラム	4
2016年度 シンポジウム・研究会	5
研究拠点	6
共同研究(公募研究)	7
2017年度 共同研究公募要領(抜粋)	7
2016年度事業内容	8
アクセス	8



三遠南信地域連携研究センター



越境地域政策の科学的な確立に向けて

地域政策は、国・県・市町村などの行政区画を単位として立案・実行されます。このため歴史や文化の一体性、或いは広域的な政策需要が存在しても、行政境界を跨ぐ県境地域や国境地域など越境地域での政策立案や実施は容易ではありません。しかし日本国内でも市町村の約4割が県境に接しているなど越境地域政策の必要性は高く、むしろ行政境界を結び目とすることによって、閉塞感を持っている従来の行政制度や政策発想に縛られない地域政策の可能性があるといます。

愛知大学は、戦前上海にあった東亜同文書院大学を前身として、1946(昭和21)年に愛知県豊橋市に設立された、地域性と国際性の協調を理念とする大学です。三遠南信地域連携研究センターは、特に愛知県・静岡県・長野県の県境地域である三遠南信地域を対象として、様々な地域研究やGIS(地域情報システム)研究を設立以来推進してきました。2013(平成25)年4月には文部科学省「共同利用・共同研究拠点」制度における「越境地域政策研究拠点」として認定され、国内外の越境地域に関する研究機関との共同研究を促進することによって、越境地域政策における地域データ整備から将来予測、政策合意形成に至る総合的な政策研究を目指しています。



三遠南信地域連携研究センター長
戸田 敏行

■これまでのセンターの取り組み

平成17年度 文部科学省 私立大学学術研究高度化推進事業	採択	5年間	「グローバルな視点に立った「地域づくり」 トータルシステムの開発」	研究代表者: 佐藤元彦 経済学部教授
平成22年度 文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業	採択	3年間	「三遠南信地域における「地域連携型 GIS」の研究」	研究代表者: 蔣湧 地域政策学部教授
平成25年度 文部科学省 共同利用・共同研究拠点	認定	6年間	「越境地域政策研究拠点」	研究代表者: 戸田敏行 地域政策学部教授
平成25年度 文部科学省 特色ある共同研究拠点の整備の推進事業	採択	3年間	「越境地域政策研究拠点」	研究代表者: 戸田敏行 地域政策学部教授



三遠南信地域



共同利用・共同研究拠点とは

「三遠南信地域」とは、愛知県東三河地域の「三」、静岡県遠州地域の「遠」、長野県南信地域の「南信」からなる県境を越えた広域地域です。愛知大学三遠南信地域連携研究センターは、これまで進めてきた行政境界を跨いだ三遠南信地域研究、GIS研究実績等が評価され、文部科学省「共同利用・共同研究拠点」に『越境地域政策研究拠点』として、平成25年度から6年間認定されました。

共同利用・共同研究拠点とは、個々の大学の枠を越えて大型の研究設備や大量の資料・データ等を、全国の研究者が共同で利用、共同研究を行うシステムです。国立大学の全国共同利用型の附置研究所等を中心に推進されてきましたが、平成20年7月に学校教育法施行規則を改正し、国公私立大学を通じたシステムとして、文部科学大臣による共同利用・共同研究拠点の認定制度が設けられました。平成28年4月現在、51大学(28国立大学、23公私立大学)103拠点が認定されています。

三遠南信地域連携研究センター

越境地域政策研究拠点の概要

従来の地域政策で対応されなかった県境地域・国境地域などの行政境界を跨ぐ越境地域政策の科学的な確立を目的とします。政策手法を構築する越境地域計画コア、政策情報を形成する越境地域情報プラットフォームコア、計量的予測に関する越境地域モデルコアで共同研究を実施し、各越境地域における地域データ整備から将来予測、地域政策合意に至る総合的な越境地域政策研究を促進します。また、国内外の越境地域における地域政策研究機関、研究者等との一般共同研究、地域間交流研究、越境地域基盤研究を行います。

越境地域政策拠点の目的

三遠南信地域における越境地域政策研究を蓄積し、国内外の越境地域とのネットワークを形成してきた愛知大学三遠南信地域連携研究センターを研究拠点とし、全国の県境地域、国外の国境地域における地域政策研究機関との共同研究によって、政策パッケージの構築を目指します。

越境地域政策拠点の必要性

我が国の市町村の約4割は県境に接しており、県境を越えた地域政策の必要性が高くなっています。また、東アジアにおいても国内越境地域・国境越境地域が出現しつつあります。しかしながら、行政境界を跨ぐ(クロスボーダー)越境地域(県境地域、国境地域)には、統一的な政策主体や地域政策データが整備されておらず、我が国や東アジアにおける地域分権の進展を背景として、越境地域政策の重要性が増しています。

三遠南信地域連携研究センターの研究蓄積

我が国の越境地域政策モデルである三遠南信地域を対象とした ①越境地域計画に関する蓄積、②越境地域の政策データを構築するGIS(地理情報科学)研究の蓄積、③越境地域を統合的に計画する計量モデル手法に関する蓄積を有しています。

越境地域政策研究拠点の体制

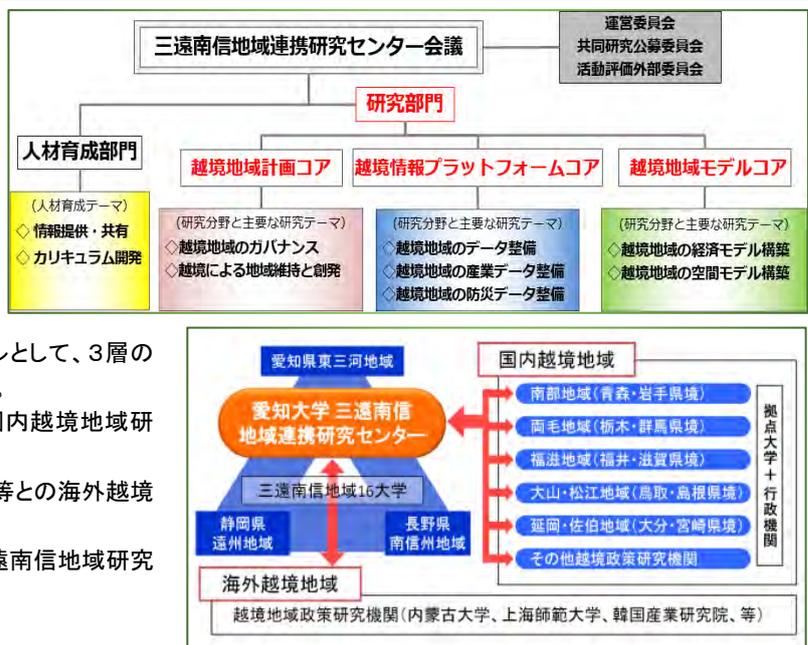
■3つの研究コア

共同研究をとおして、越境地域における地域データの将来予測、地域政策合意にいたる総合的越境地域政策研究を促進します。

- ・越境地域計画コア
- ・越境地域情報プラットフォームコア
- ・越境地域モデルコア

■3層の共同研究機関ネットワーク

- ・県境地域「三遠南信地域」を政策実験モデルとして、3層の共同研究機関ネットワークで研究を進めます。
- ・全国県境地域との連携により蓄積してきた国内越境地域研究機関ネットワーク
- ・共同研究を行ってきた東アジアにおける大学等との海外越境地域研究機関ネットワーク
- ・三遠南信地域16大学、シンクタンク等との三遠南信地域研究機関ネットワーク



■外部委員(活動評価外部委員会・運営委員・公募委員会)

活動評価外部委員会

大西 隆	日本学術会議 会長 豊橋技術科学大学 学長・教授
村山 祐司	筑波大学 教授
氷鮑 揚四郎	筑波大学 教授

拠点運営委員会

大貝 彰	豊橋技術科学大学 理事・副学長・教授
川口 宗敏	静岡文化芸術大学 名誉教授
瀬田 史彦	東京大学大学院 准教授
郭 暁川	内蒙古大学経済管理学院 院長・教授
穂積 亮次	愛知県新城市 市長
加藤 勝敏	東三河地域研究センター 常務理事

共同利用・共同研究公募委員会

山崎 寿一	神戸大学大学院 教授
福島 茂	名城大学 副学長・教授
巖 網林	慶應義塾大学 教授

文部科学省 共同利用・共同研究拠点 プログラム・アドバイザー

奈良 由美子	放送大学 教授
八田 英二	同志社大学 教授

2016年度 越境地域政策研究フォーラム



2017年1月28日、三遠南信地域連携研究センター主催で越境地域政策研究フォーラムを開催しました。午前は大島 伸一氏(国立長寿医療研究センター名誉総長)を迎えて記念講演「医療・福祉のまちづくり提案」、長谷川敏彦氏(未来医療研究機構代表理事)を迎えて基調講演「高齢社会の新しいまちづくりと医療・福祉のあり方」を行いました。

午後は「越境地域とガバナンス」、「越境地域と空間情報」、「越境地域と産業・経済」、「越境地域と医療・福祉」、「越境地域と歴史・文化」の5つのテーマによる分科会に分かれ、19のタイトルについて活発な発表と質疑応答が行われました。最後に、各分科会の総括がコーディネーターより報告され、交流会では越境地域政策をめぐる各地域・各学問分野における情報交換が行われました。

(場所:愛知大学豊橋校舎)

開催趣旨

地域政策は、国・県・市町村などの行政区域を単位として立案・実行されます。このため歴史や文化の一体性、或いは広域的な政策需要が存在しても、行政境界を越えて越境地域や国境地域などの政策立案や実施は容易ではありません。しかし、日本の市町村の約半数が隣接しているなど越境地域政策の必要性は高く、むしろ行政境界を越えて行うことにより、従来の行政区域や制度に縛られない地域政策の可能性が広がります。

愛知大学三遠南信地域連携研究センターは、文部科学省「共同利用・共同研究拠点」制度における「越境地域政策研究拠点」として、国内外の越境地域を対象とした政策研究を行っています。その一環として、第4回目となる研究フォーラムを下記の通り開催いたします。越境地域政策に関心を持つ皆様のご参加をお待ちしております。

日時:2017年 1月28日(土) 場所:愛知大学豊橋校舎

10:00~12:00 講演・事例報告 (会場:記念館3F)

あいさつ 川井 伸一(愛知大学学長)

- 報告「越境地域政策研究の現状と展望」 戸田 敏行 (三遠南信地域連携研究センター長)
- 記念講演「医療・福祉のまちづくり提案」 大島 伸一 (国立長寿医療研究センター名誉総長)
- 基調講演「高齢社会の新しいまちづくりと医療・福祉のあり方」 長谷川敏彦 (未来医療研究機構代表理事)

13:30~16:30 分科会 (※発表者・聴および会場は変更になる場合があります)

分科会	1 越境地域とガバナンス (会場:記念館) 司会:進行:戸田敏行(愛知大学) コメンテーター:大島伸一(豊橋技術科学大学) 趣旨:国内県境域および県境域の政策事例から、行政境界を越えた越境地域におけるガバナンス形成の課題と展望を考える。 ・ 地方創生交付金対象事業における越境連携事業: 小川勇樹(愛知大学) ・ インフォーマルな交流を介した越境地域の産業経済連携に関する研究: 佐藤達(東京大学) ・ 中国内モンゴル自治区を中心とする環境的な経済連携について: 藤城(内蒙古大学) ・ 半島文化の内陸型展開と越境ネットワーク化に関する研究: 橋津達文(NPOフォーラム自治研究) ・ 県境をまたぐ共生圏の創生: 青山幸一(豊橋村役場・愛知長野県境域開発協議会)
	2 越境地域と空間情報 (会場:本館2F) 司会:進行:尚源(愛知大学) コメンテーター:岩崎正弘(愛知大学) 趣旨:越境地域の情報基盤を考えると穴が空いた、機械学習・GIS・シミュレーションなどデータ技術に関する研究成果を報告し、行政境界で分断されやすい情報を補完する可能性について議論する。 ・ 歴史的知見と科学的手法を合わせたGISの取組: 中井春香、久世晋一郎(ナカシャクリエイト㈱) ・ 巨大災害に対する地域脆弱性の評価と事前計画の策定支援—災害廃棄物処理を事例として: 飯淵林、横山勉、久嶋修彦、岡田拓成、岸本晋大(慶應義塾大学) ・ 安城、岡崎域内の矢作川流域における水害リスクの評価: 加藤達也、善通(愛知大学) ・ GIS会社からみたドローン産業の現状と課題—ドローン連携型橋梁維持管理システムの研究開発と墜落事故を通してわかったこと—: 佐藤亮介、澤田良行(翔マップテクノス)
	3 越境地域と産業・経済 (会場:本館3F) 司会:進行:藤木伸比古(愛知大学) コメンテーター:佐藤正之(名古屋経済大学) 趣旨:産業・経済分野において海外も含めた行政境界を越えた連携の現状、課題について、経済学、経営学、地理学などの視点から明らかにするとともに、今後の政策展開へのアイデアや議論を深める。 ・ 三遠南信と周辺地域の空間経済分析に関する研究: 浅沼博幸(豊橋技術科学大学) ・ 「三遠南信地域」に関するアンケート調査結果にみる三遠南信域内企業間取引等の現状・課題について: 林郁夫(NPO しんきん産業州地域研究所) ・ 県境道路沿道ゾーンの地域構造に関する研究: 小塚みすず(神戸工業高等専門学校) ・ 広域地方圏と大都市圏を結ぶゲートウェイ・シティとしての豊橋市の地域特性に関する地理学的研究: 阿部亮吾(愛知教育大学) ・ ベトナム・ラオス間国境地域開発と越境物流に関する一考察: 名和聖高(愛知大学)
	4 越境地域と医療・福祉 (会場:研究館1F) 司会:進行:長谷川敏彦(未来医療研究機構) コメンテーター:岩崎正弘(愛知大学) 趣旨:高齢社会の医療福祉を考えた新しいまちづくりのあり方について、行政境界を越えた政策立案を踏まえつつ議論を深める。 ・ 講演「医療・福祉のまちづくり提案」: 大島伸一(国立長寿医療研究センター名誉総長) ・ パネリスト:石田芳弘(元大田市長)、伊藤善祐(東京大学長寿社会のあり方を考える会代表幹事・あやめ診療所長)、植橋亮次(新城市長)、安井俊夫(愛知総合看護福祉専門学校校長・元愛知県教育長)、山本左近(医療法人・社会福祉法人さわかひ会統括本部長)
	5 越境地域と歴史・文化 (会場:研究館1F) 司会:進行:藤田佳久(愛知大学) コメンテーター:北川和秀(群馬県立女子大学) 趣旨:道と越境をテーマに、歴史・地理・民俗・文学・語学の視点から越境地域を捉えなおすとともに、今後の歴史と地域政策の新たなビジョンを探る。 ・ 古代東海道・東山道の「坂」項と越境—古代日本語からのアプローチ—: 和田明美(愛知大学) ・ 古代史料にみる三遠: 北川和秀(群馬県立女子大学) ・ 参州・遼江国と古代東海道: 竹尾利夫(名古屋女子大学) ・ 明治期資料からみた三遠の河川舟運—歴史GISデータベースの構築に向けて—: 飯塚隆藤(愛知大学)

17:00~19:00 総括報告会・交流会 (会場:道選館2F(生協))

御名前: _____ 御所属: _____

御連絡先(TEL・FAX・E-mail いずれか): _____

1/28参加希望 (Oをつけてください): 記念講演・基調講演、分科会 1・2・3・4・5、交流会(一般参加費千円)

※参加をご希望の方は、FAXまたはE-mailにてお申し込み下さい。



越境地域政策研究フォーラム

◆お問い合わせ先
 愛知大学
 三遠南信地域連携研究センター
 〒441-8522
 愛知県豊橋市市町畑町1-1
 TEL: 0532-47-4157
 FAX: 0532-47-4576
 E-mail: sen-center@aichi-u.ac.jp



2016年度 シンポジウム・研究会



シンポジウム

開催日：2016年10月18日(火)

テーマ：「海浜・山間地域の廃校活用を考える」

内容：

■基調講演：「明日の東栄町と廃校活用を考える」

村上 孝治 氏(東栄町長)

■パネルディスカッション：「廃校活用の地域合意をどう形成するか？」

・報告者 久保田経三 氏(NPOフォーラム自治研究主任研究員)

・パネリスト 村上 孝治 氏(東栄町長)

粕谷 政行 氏(「伊良湖小」活用検討委員会委員)

大脇 聡 氏(「のき山学校」NPOてほへ副理事長)

・司会 嶋津 隆文 氏(三遠南信地域連携研究センター研究員、
NPOフォーラム自治研究 理事長)

・共催：NPOフォーラム自治研究



シンポジウム

開催日：2016年10月29日(土)

テーマ：「共感が生んだローカルメディアのつながり

～3.11を契機とした県境を越えたネットワーク～」

内容：

■パネルディスカッション

・コーディネーター 戸田 敏行(愛知大学三遠南信地域連携研究
センター長)

・パネリスト 吉田 圭 氏(NPO法人エフエムあおぞら 理事長)

森 憲一 氏(宮城県山元町 教育長)

森 包義 氏(株式会社エフエム豊橋 代表取締役社長)

前川 緑 氏(株式会社エフエム豊橋 ラジオパーソナリティ)

西村なぎさ 氏(株式会社エフエム豊橋 ラジオパーソナリティ)

・共催：公益社団法人東三河地域研究センター



第15回コア研究会

開催日：2016年12月20日(火)

研究発表：「情報とインテリジェント時代におけるトヨタ研究開発
モデルの特徴と限界」 趙 妍 氏(上海師範大学)

共催シンポジウム

「人口減少時代における地域力シンポジウム」

開催日：2017年3月26日(日)

内容：

■事例紹介：可児市、新城市、牧之原市

■パネルディスカッション

・パネリスト 川上 文浩 氏(可児市市議)

穂積 亮次 氏(新城市市長)

西村 茂樹 氏(牧之原市市長)

・主催：TOKAI★SHARE

TOKAI★SHARE × 愛知大学三遠南信地域連携研究センター コアイベント
人口減少時代における地域力シンポジウム

人口減少社会、高齢化社会、地方教育の危機～等しい課題があるが、「住民主体のまちづくり」を推進し、地方の活性化を図る。東海地方では、「地方の活性化」を促す「まちづくり」が盛り上がり、その中心には、特に注目される3市(可児市、新城市、牧之原市)が中心となり、シンポジウム形式で「人口減少時代における地域力」の形成に向けて考えよう。

日時：2017年3月26日(日) 13:00～16:00
場所：愛知大学豊橋キャンパス 記念会館小講堂
(愛知大学豊橋キャンパス 愛知大学豊橋キャンパス)

<p>議会の中心により 高校生の政策提言</p> <p>可児市市議 川上文浩</p>	<p>シンポジウム 参加費 500円 (学生無料)</p> <p>懇親会 参加費 1,000円 (学生500円)</p>
<p>若者の意見を汲み取る 仕組みづくり</p> <p>新城市市長 穂積亮次</p>	<p>12:30 受付開始 13:00～13:30 事例紹介(可児市)</p> <p>13:30～14:00 事例紹介(新城市)</p> <p>14:00～14:30 事例紹介(牧之原市)</p> <p>14:45～16:00 パネルディスカッション 終了後、懇親会</p>
<p>住民が楽しく行政に 参画、意識転換後</p> <p>牧之原市市長 西原茂樹</p>	

参加をご希望の方は、①お名前 ②お所属、③懇親会への参加有無に④お、e-mailは以下URLにて、3/19(日)まで申し込みください。
E-mail: aidaiyuppo@gmail.com
URL: <http://kokuchess.com/event/index/451570/>

主催：TOKAI★SHARE 共催：愛知大学三遠南信地域連携研究センター

その他 講演会

「三遠南信地域政策講演会―首長が語る地域経営―」

開催日：2016年6月29日(水)

テーマ：「人口減少と地方創生

自治する日本―地域起点の民主主義―」

講演者：穂積 亮次 氏(新城市市長)

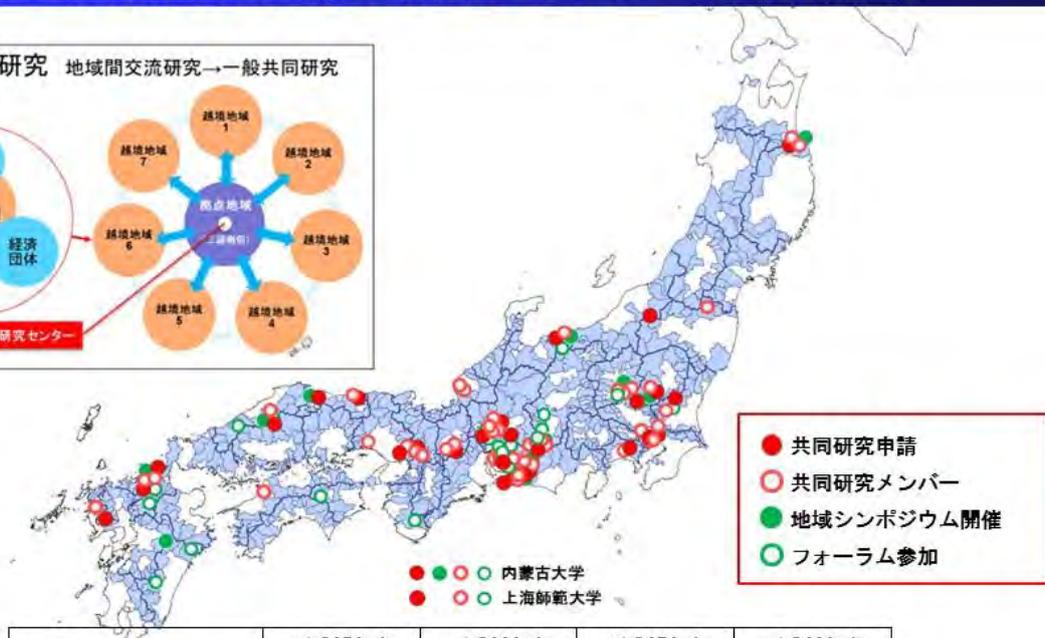
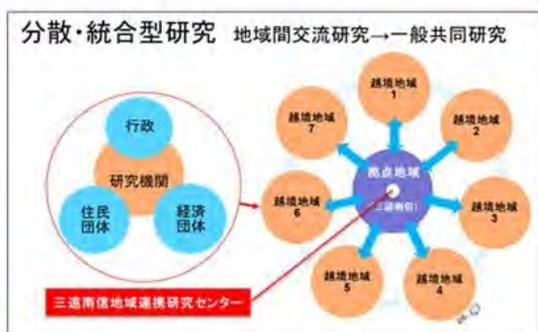


研究拠点

2013年度共同利用・共同研究拠点「越境地域政策研究拠点」に認定されて以来、様々な研究機関との連携や公募研究をはじめとする共同研究を行ってきました。この間、越境地域政策に関する共同研究参加機関は年々広がっており、2016年度末には下記の95機関となりました。

また、研究体制をより強化するため、2016年度には連携組織の分室を設置しました。

越境地域政策研究拠点の研究ネットワーク【95機関】



	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
地域間交流研究	5	4	4	2
一般共同研究	※募集せず	7	7	7
公募研究計	5	11	11	9
研究者機関	大学47、シンクタンク17、行政18、その他13機関			
研究者所属	国立26、公立31、私立27、その他11機関			
研究者地域	東北5、関東24、中部36、近畿5、中四国11、九州8、海外8			

新たに設置した分室

三遠南信地域連携ビジョン推進会議事務局分室

2016年9月23日、当センターにて「三遠南信地域連携ビジョン推進会議と愛知大学との相互協力及び連携に関する協定」の締結式が行われました。

三遠南信地域連携ビジョンの推進を支援し、三遠南信地域の振興発展に寄与することを目的として、当センター内に事務局分室を設置しました。



三遠南信地域連携研究センター・うるぎ分室

今後の中山間県境域の研究活動拠点となる「うるぎ分室」を売木村役場2階に開設しました。

2016年11月30日に、設置にかかわる覚書の締結式を開き、戸田センター長と清水秀樹村長が握手を交わして、看板を掲げました。



共同研究（公募研究）

越境地域政策研究拠点は、国内・国外の越境地域における地域政策研究機関との共同研究、地域間の研究交流を行うことによって、従来の地域政策で対応されなかった県境地域・国境地域などの行政境界を跨ぐ越境地域政策の科学的な確立を目的としています。

本センターでは、同拠点事業として、共同研究の質的向上と研究参加の拡大にむけ、共同研究を公募します。2016年度は「一般共同研究」と「地域間交流研究」について助成しています。

一般共同研究	2016-001	2016-002	2016-003	2016-004	2016-005
研究テーマ	三遠南信と周辺地域の空間経済分析に関する研究	広域地方圏と大都市圏を結合するゲートウェイ・シティとしての豊橋市の地域特性に関する地理学的研究	半島文化の内発型展開と越境ネットワーク化に関する研究	三遠南信の「道と越境の歴史文化」に関する通時的研究と社会的還元の試み	インフォーマルな交流を介した越境地域の産業経済連携に関する研究
研究対象地域	三遠南信地域	豊橋市を中心とした周辺圏域	渥美半島（愛知・静岡・三重県）、松浦半島（長崎、佐賀県）	三遠南信地域を中心に東海道・東山道・中央構造線隣接エリア	山陰・瀬戸内などの定住自立圏形成市町村
研究代表者	洪澤博幸 共同研究者2名	阿部 亮吾 共同研究者3名	嶋津 隆文 共同研究者4名	和田 明美 共同研究者5名	佐藤 遼 共同研究者3名
所属機関	豊橋技術科学大学	愛知教育大学	特定非営利活動法人フォーラム自治研究	愛知大学	東京大学大学院

一般共同研究	2016-006	2016-007
研究テーマ	県境道路沿道ゾーンの地域構造に関する研究	南海トラフ巨大地震に対する地域脆弱性の評価と対策検討
研究対象地域	福井県	静岡県、愛知県沿岸および内陸越境地域
研究代表者	小塚 みすず 共同研究者3名	大木聖子 共同研究者3名
所属機関	神戸市立工業高等専門学校	慶應義塾大学

地域間交流研究	2016-001	2016-002
研究交流テーマ	中国内モンゴル自治区を中心とする越境的な経済連携について	県境をまたぐ共生圏の創生
研究対象地域	中国内モンゴル自治区・黒龍江省・吉林省・遼寧省・河北省・山西省・陝西省・寧夏回族自治区・甘肅省	長野県阿南町・売木村・根羽村・天龍村・愛知県豊根村
申請代表者	暁 敏 共同申請者3名	青山 幸一 共同申請者4名
所属機関	内蒙古大学	愛知長野県境域開発協議会

2017年度 共同研究公募要領（抜粋）

一般共同研究

- 研究内容／一般共同研究者は、全国の研究者を対象に、特定の越境地域において、以下の越境地域政策に関する研究課題（課題研究、自由研究）を対象とします。

課題研究	1.越境地域のガバナンス形成 2.越境地域のリスク管理 3.越境地域の産業経済連携 4.越境地域の生活環境形成 5.越境地域の情報基盤整備
自由研究	越境地域政策に関する研究課題を自由に設定

- 研究対象者／大学およびその他研究機関等に所属する研究者と、共同研究者もしくは協力者を加えて2名以上で構成されているもの（大学院生が申請する場合は1名でも可、ただし指導教員の推薦状が必要）。
- 募集件数／数件
- 研究費／1件50万円程度（大学院生は20万円程度）
- 申請期間／2017年3月14日（火）～ 4月29日（土）必着
- 採択通知／2017年5月下旬
- 研究期間／2017年5月下旬～ 2018年3月末

地域間交流研究

- 研究内容／地域間交流研究は、越境地域政策研究の基盤づくりを目的として、特定の越境地域（国内・国外）における産・官・学の研究者や行政関係者によるシンポジウム・研究会等の研究交流事業を中心とします。
- 申請対象者／越境地域政策に関与する、もしくは関与が想定される研究者、行政関係者、経済団体、NPO関係者など。申請者を含めた産・官・学の複数名からなるグループで実施すること。シンポジウム、フォーラム、セミナー、ワークショップ、研究会等、越境地域政策のための研究交流を開催し、その成果を、愛知大学三遠南信地域連携研究センターにおいて報告・発表できるもの。
- 募集件数／数件
- 研究費／1件50万円以内
- 申請期間／2017年3月14日（火）～ 4月29日（土）必着
- 採択通知／2017年5月下旬
- 研究期間／2017年5月下旬～ 2018年3月末

2016年度事業内容

■主な事業項目

I. 研究者コミュニティ開発

- ①越境地域政策研究フォーラム開催
- ②越境地域調査
- ③越境地域政策研究会
- ④ブックレット編集
- ⑤研究紀要刊行
- ⑥ホームページ運営
- ⑦ニュースレター発行

II. 共同研究

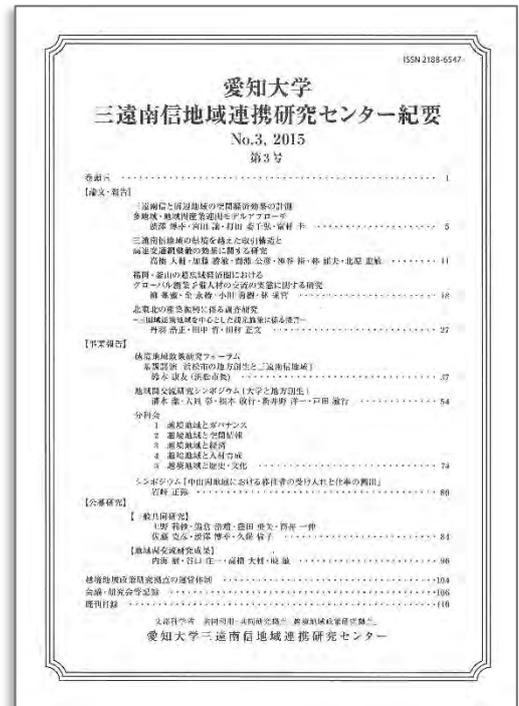
- ①一般共同研究(公募研究)
- ②地域間研究交流(公募研究)
- ③越境地域基盤研究
- ④三遠南信地域連携ビジョン推進会議(SENA)との共同研究

III. 共同利用・共同研究の環境整備

- ①人員体制の整備
- ②施設、設備等の整備
- ③会議運営

■刊行物

愛知大学三遠南信地域連携研究センター紀要
第3号を刊行しました。



アクセス

■愛知大学豊橋キャンパスまでのアクセス



■愛知大学豊橋キャンパスマップ



■お問い合わせ先

〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町 1-1
 TEL 0532-47-4157 FAX 0532-47-4576
 URL <http://www.aichi-u.ac.jp/san-en/>